

循環器外科に通院中の患者さんまたはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成 26 年文部科学省・厚生労働省告示第 3 号）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名]

重症虚血性僧帽弁閉鎖不全症に対する乳頭筋吊り上げ術を追加した僧帽弁形成術の有用性に関する多施設共同研究

[研究機関名・長の氏名] 北海道大学病院 秋田 弘俊

[研究責任者名・所属] 若狭 哲 循環器・呼吸器外科 教授

[研究代表機関名・研究代表者名・所属] 東京慈恵会医科大学 國原 孝 心臓外科

[共同研究機関名・研究責任者名]

荒井 裕国 東京医科歯科大学

松宮 護郎 千葉大学

高梨 秀一郎 川崎幸病院・榊原病院

夜久 均 京都府立大学

小宮 達彦 倉敷中央病院

佐田 文宏 中央大学

松居 喜郎 華岡青洲記念心臓血管クリニック

尾辻豊 産業医科大学

上嶋徳久 心臓血管研究所附属病院

種村 正 心臓血管研究所附属病院

本村 昇 東邦大学

[研究の目的]

重度虚血性僧帽弁閉鎖不全症に対する僧帽弁置換術と乳頭筋に介入した僧帽弁形成術の臨床成績を後方視野的に比較検討すること。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2015 年 1 月 1 日より 2019 年 12 月 31 日までに重症虚血性僧帽弁閉鎖不全症に対して

手術を施行された方。

○利用するカルテ情報

全死亡、心血管死亡及び脳心血管有害事象（死亡、脳梗塞、僧帽弁に対する再手術、心不全による再入院、NYHA class の増悪のいずれか）、1年後の心エコーによる左室容量、左室径ならびに収縮能、中等度以上の僧帽弁逆流の再発

この研究は、虚血性僧帽弁閉鎖不全症の患者さんの治療を行っている機関で実施します。上記の心エコー情報は、僧帽弁閉鎖不全の解析のために慈恵会医科大学に、電子的配信で提供します。

[研究実施期間] 実施許可日～2023年12月31日

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

*上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目

北海道大学病院 循環器外科 担当医師 石垣 隆弘

電話 011-706-6042 FAX 011-706-7612